

## 第三者コメント

第三者コメントは、情報の正確性に関する意見表明を行うものではありません。



神戸大学大学院  
経営学研究科教授  
國部 克彦氏

### 村田製作所グループ 「CSRレポート2006」を読んで

村田製作所のCSRレポートは、経済・環境・社会の3つの側面を中心に編集されており、これはトリプルボトムラインを追求する経営として適切な構成です。

#### 経済性報告について

村田製作所は「ステークホルダーとの経済的関係」を経済情報として開示していますが、この考え方は妥当なものです。しかし、従業員関係に関しては人数だけの説明で、経済的な分配額の開示がないのが惜しまれます。日本企業でも付加価値分配計算書を開示する企業が増加傾向にあるので、今後は、村田製作所にとっての社会的責任としての経済的関係のあり方を明示して、具体的なマネジメントの展開を期待します。

#### 環境報告について

環境活動については、2005年度の目標をほぼクリアし、未達目標についてもその改善の方向性が示されており、環境経営は着実に進歩していると評価できます。社長のメッセージにもあるように、本社でISO14001を取得して、グループ全体の環境マネ

ジメント体制が整ったことは、今後の一層の進展を期待させます。製品の開発・設計でも、LCAを取り入れられている点や、RoHS指令を超える自主的な有害物質排除の方針と努力を実施されていることは高く評価されるものです。

個別の環境対策分野については詳細な報告がなされていますが、記述形式を統一されると一層メッセージが明確になると思われます。具体的には、当年度の目標・実績・次年度の目標を各項目部分でも明示することによって、環境マネジメントの具体的な進捗状況が開示できます。別冊のデータ集と本文の関係をもう少し工夫され、環境中長期計画のような重要な情報は本文の中で説明する必要があるように思われます。

今後はサイト情報や海外情報の充実が重要な課題になると考えられます。環境報告書の範囲を拡張するとともに、サイトデータを充実させることは村田製作所グループ全体の環境経営を強化することにつながるはずです。

#### 社会性報告について

社会性報告については、幅広く情報を開示しようとする姿勢には好感が持てます。しかしながら、環境報告のように目標を立てて、活動を実施するというところまでは進んでいないようです。今後はこの点が課題になると考えられます。

CSR活動において最も重要なことは、会社にとって何が重要な社会的事項かを知る努力です。そのためにはステークホルダーの声を汲み上げる仕組みが必要です。また、社会的事項に関しても、何らかの指標を構築して、プライオリティを意識して対応する努力が、企業の経営力を高めることにつながると考えます。